

第28回関西障がい学生支援担当者懇談会（2022年3月2日開催）

【アンケート集計結果】

1～4はKSSK開催前の申込時にアンケートを実施（出席人数48名※うち分科会出席者48名）、5～10はKSSK開催後にアンケートを実施（回答人数38名※回収率69%）

1-1 所属大学

大学コンソーシアム京都加盟大学

大学名	人数
京都大学	1
京都市立芸術大学	2
大谷大学	1
京都外国語大学	2
京都産業大学	1
京都女子大学	1
京都文教大学	2
同志社大学	3
佛教大学	3
龍谷大学	1
合計	17

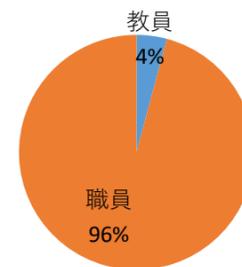
大学コンソーシアム京都非加盟大学

大学名	人数
阪南大学	1
四天王寺大学	1
桃山学院大学	3
大阪市立大学	2
大阪観光大学	1
大阪人間科学大学	1
大阪府立大学	2
大阪大学	1
聖泉大学	1
長浜バイオ大学	1
関西学院大学	2
神戸学院大学	4
豊岡短期大学	1
武庫川女子大学	4
兵庫教育大学	1
神戸松蔭女子学院大学	2
神戸大学	3
合計	31

1-2 区分

No	選択肢	人数	%
1	教員	2	4.2
2	職員	46	95.8
合計		48	100.0

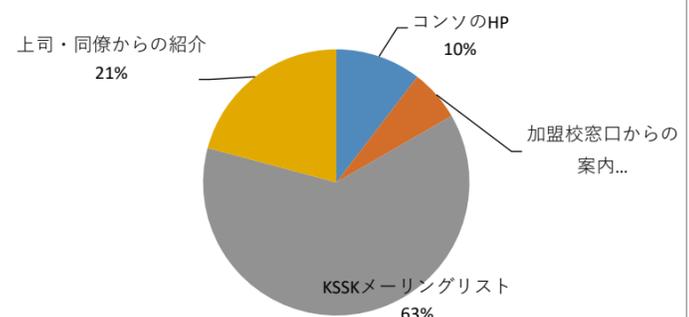
1-2 区分



2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？（複数回答可）

No	選択肢	人数	%
1	大学コンソーシアム京都のホームページ	5	10.4
2	加盟校窓口担当者からの案内	3	6.3
3	KSSKメーリングリスト	30	62.5
4	上司・同僚からの紹介	10	20.8
5	知り合いからの紹介	0	0.0
6	その他	0	0.0
合計		48	100.0

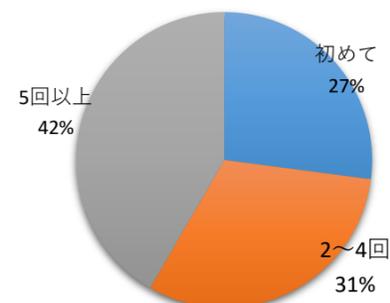
2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？



3. KSSKは何回目の参加でしたか？

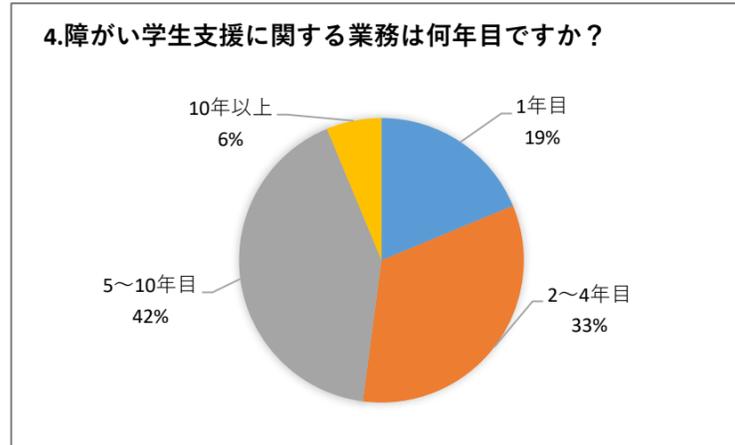
No	選択肢	人数	%
1	初めて	13	27.1
2	2～4回	15	31.3
3	5回以上	20	41.7
4	無回答	0	0.0
合計		48	100.0

3. KSSKは何回目の参加でしたか？



4. 障がい学生支援に関する業務経験は何年目ですか？

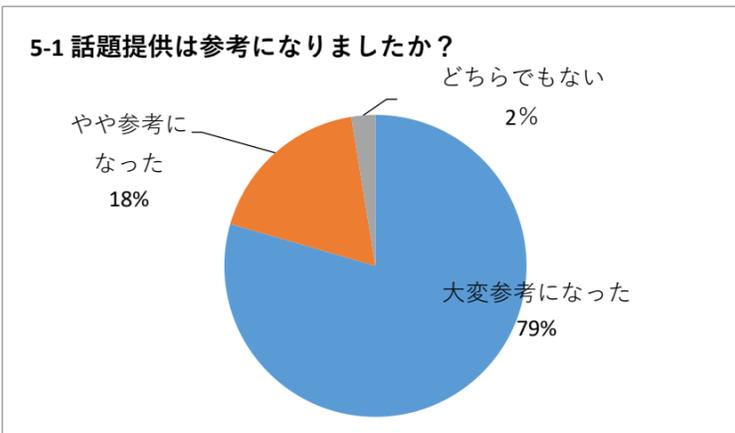
No	選択肢	人数	%
1	1年目	9	18.8
2	2～4年	16	33.3
3	5～10年未満	20	41.7
4	10年以上	3	6.3
5	経験なし	0	0.0
6	無回答	0	0.0
合計		48	100.0



5. 話題提供について

5-1 話題提供は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	31	79.5
2	やや参考になった	7	17.9
3	どちらでもない	1	2.6
4	あまり参考にならなかった	0	0.0
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
合計		39	100.0



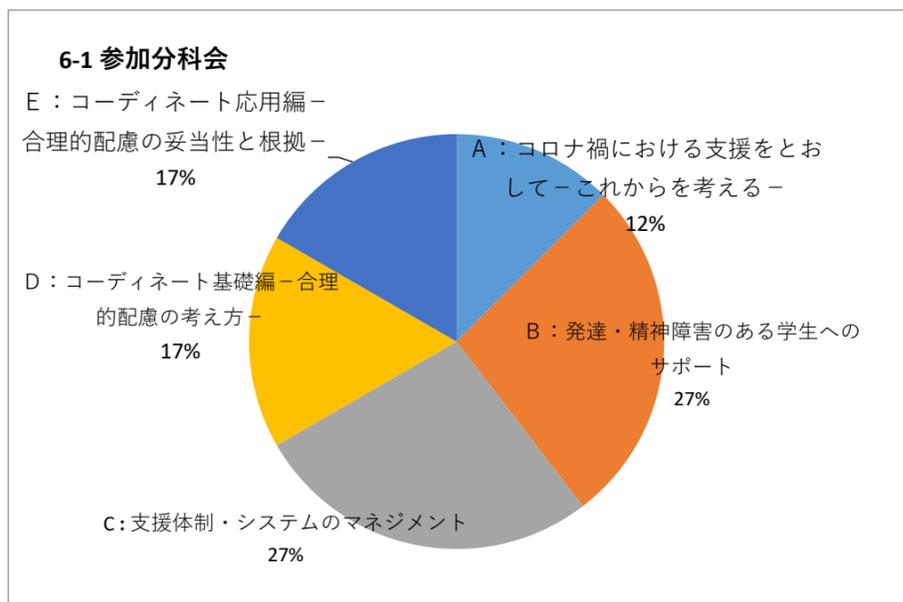
5-2 上記5-1の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答内容	理由
1	大変参考になった	それぞれの大学の状況の中で対応されている内容を知ることができた。
2	大変参考になった	On goingで組織を動かしていらっしゃる大学さまからの話題提供だったため。
3	大変参考になった	本学では、障がい学生支援室という位置づけがないのですが、今後立ち上げとなった際の参考になりました。独立したときの課題点について、情報や大学の動きが分かりにくいといった点について大変参考になりました。
4	大変参考になった	精神障害のある学生の欠席の配慮の考え方や、責任の所在を主治医におく、というお話が、大変勉強になりました。今後、精神障害の学生のコーディネートを行う上で、事前にお話をうかがえたことがありがたかったです。
5	大変参考になった	本学のことであるので、関心をもって聞きました。
6	大変参考になった	組織体系がそのまま支援に影響を与えるため、本学の体制整備について見直しの参考にさせていただくことができました。
7	やや参考になった	支援方法が参考になりました。支援方法等についてもスライドがあると有難かったです。
8	大変参考になった	これまで知らなかった他大学の取り組みを知ることができ大変参考になりました。
9	大変参考になった	経験が浅い立場でも参加・理解しやすい内容でした。
10	大変参考になった	組織の中で独立して設置された大学と開学する大学の事例をきけたから
11	大変参考になった	コロナ禍での支援について、他大学の支援のお話を聞くことで、本学の支援についても振り返ることができました
12	大変参考になった	コロナ禍で経験した状況が、どの大学にも共通するところがあり、また具体的な解決として新たに生まれた支援などを知れたことが大きな成果だと感じました。
13	大変参考になった	他大学のことが分かり、参考になった。本校の修学支援学生の割合と比べて説明して頂いた大学の割合が低いのに驚きました。本校の特徴として、修学支援が必要な学生が多数入学しているのか？修学支援が必要でない学生に対しても支援をしているのか？等、考えるきっかけになりました。
14	やや参考になった	コロナ禍による変化は、本学でも同様の状況であり、他大学での様子を知ることによって、大変だった頃の思いを共有することができたと考える。一方で、組織的な変化については本学とは異なるため、情報として知ることができたという思いに留まった。もう少し掘り下げて経緯などをお伺いしたかった。
15	大変参考になった	コロナ禍でオンラインを導入したメリットや新たな取り組みなどを知ることができたため。
16	やや参考になった	コロナ禍における支援で難しかったことと良かったことの両面について、お話をお聞きしながら、振り返り考えることができた。
17	大変参考になった	オンラインでの聴覚学生のディスカッション参加は対応に苦慮することもあったので、グーグルドキュメントの活用例は非常に参考になりました。
18	大変参考になった	自分自身、障害学生支援の仕事はコロナの状況下で始めたため、このような対応が異例づくしであることは想像はできていたのですが、他の大学での取り組みをじっくりと聞くことができ、以下に異例な中でいろいろな工夫がなされているかがわかり、大変参考になりました。
19	大変参考になった	現在、最も関心のあるテーマだったので参考になりました。
20	大変参考になった	他大学の様子を拝聴できたため
21	大変参考になった	体制、組織づくりの課題について改めて考えさせられた。
22	どちらでもない	コロナ禍の状況での支援方法について、本学においても概ね同じような対応を行っていたため。
23	大変参考になった	お話の内容が本学でも該当するものであり、共感することができる内容でした。
24	大変参考になった	他大学の状況や課題の話が伺えて、大変参考になりました。ありがとうございます。
25	大変参考になった	対談形式であったことと、包み隠さずに話題提供いただけたため。
26	大変参考になった	次の分科会に向けての基礎知識も構築できました
27	大変参考になった	他大学で同じ業務に取り組まれている方からのお話で、支援内容についての工夫を知れたり、現在は支援を行っていない障害種に関してのお話も伺えたので、今後の参考になった。
28	大変参考になった	他大学の支援、特に聴覚の情報保障、についてお聞きでき、参考にさせていただける点がありました。

6. 分科会について

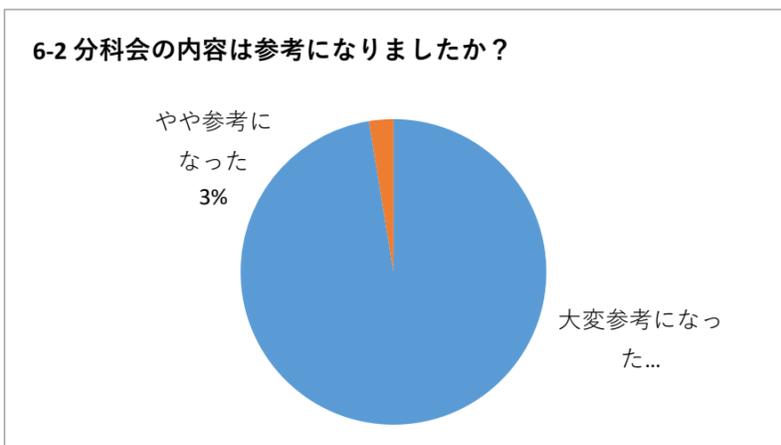
6-1 参加分科会（アンケートではなく受付名簿より算出）

No	選択肢	人数	%
1	A：コロナ禍における支援をととして－これからを考える－	6	12.5
2	B：発達・精神障害のある学生へのサポート	13	27.1
3	C：支援体制・システムのマネジメント	13	27.1
4	D：コーディネート基礎編－合理的配慮の考え方－	8	16.7
5	E：コーディネート応用編－合理的配慮の妥当性と根拠－	8	16.7
	合計	48	100.0



6-2 分科会の内容は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	38	97.4
2	やや参考になった	1	2.6
3	どちらでもない	0	0.0
4	あまり参考にならなかった	0	0.0
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
	合計	39	100.0



6-3 上記6-2の回答を選択された理由をご記入ください。

◆『A：コロナ禍における支援をととして－これからを考える－』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	コロナ禍における基礎疾患での欠席について、合理的配慮としてとらえるかどうか、各大学での対応を知ることができ大変参考になりました。その他、コロナ禍における授業サポートについて、本学が実践していない事例も参考になりました。
2	大変参考になった	他大学のお話を聞くことができて大変勉強になりました。

◆『B：発達・精神障害のある学生へのサポート』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	特に興味のあるテーマへ参加でき、課題の共有等ができたため
2	大変参考になった	同じような問題に対して、各大学の規模や体制によって様々な工夫をされていることが大変参考になりました。本学の規模や体制に合った対応を考えていこうと思いました。
3	大変参考になった	参考文献の情報があつたことと、質問に具体的な例を回答してもらえたからです。
4	大変参考になった	学生対応の様々な事例を伺い、今後の学生支援に役立てることができようしっかりと情報共有していきたいと思います。
5	大変参考になった	日頃の悩みを共有でき、また、他大学での事例や対応方法をお聞きでき、とても勉強になりました
6	大変参考になった	発達障がい・精神障がいの学生の自己理解の大切さを再認識したところ。どの大学も自己理解して頂くことが難しく、時間がかかる。丁寧に面談等を通して取り組まないと前に進まないこと。等がわかり、頑張ろうという気持ちになりました。
7	大変参考になった	配慮申請から決定までのプロセスにおいて、合意形成の場に学生が同席し「自分のことを人に伝える場」とし自己理解・自己認識支援を行っていることや各大学の事例と具体的な対応がとても参考になりました。
8	大変参考になった	発達障害学生の自己認識・自己理解支援や、精神障害学生への配慮と治療のバランスといった点について、改めて考えることができ、他大学での取り組みも聞かせていただいて参考になった。
9	大変参考になった	経験のあるコーディネーターの方々が事例を挙げながら具体的にお話ししてくださったので非常にわかりやすかったです。
10	大変参考になった	レクチャーをしていただいたことで、より詳しく理解できた

◆『C：支援体制・システムのマネジメント』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	それぞれの大学が、独自の対応を共有しつつ、最新の情報も得ることができた。
2	大変参考になった	久しぶりにKSSKらしい、突っ込んだ情報交換・意見交換ができたため
3	大変参考になった	今年度、障がいのある学生への支援に関する基本方針、それに係る規程を策定したばかりである一方、来年度肢体不自由の学生の入学が決まっており、具体的な準備や実際の運用面について、非常に参考になったため。
4	やや参考になった	組織的な話や行政との連携、福祉に関することなど、多岐にわたる意見・情報が共有できたことは大変良かったものの、思ったよりも時間がなく、一つ一つを掘り下げて話ができなかった。また、オンライン上での10名を超えるディスカッションは、なかなか声を上げづらいと感じた。
5	大変参考になった	新大学の準備に向けて他大学での経験などを勉強させていただけたから
6	大変参考になった	ここまでお聞きして大丈夫だろうかと不安に思いつつも、かなり踏み込んだ内容まで、意見交換や情報交換ができたのが、ありがたかったです。
7	大変参考になった	差別解消法改正に関連して、最新かつ生の情報を得ることができたため。また、他大学の皆様の現下の状況をお聞きすることができたため。
8	大変参考になった	先行例の実情を知ることができました。
9	大変参考になった	他大学の事例は自大学の問題解決の「ひらめき」になりました。

10	大変参考になった	障がい学生支援部署に勤務し1年余りで、障がい学生・サポート学生と直接関わる部分での業務をこなすことで精一杯でした。今回の分科会で他大学の実情・取り組みと村田先生の解説を伺い、支援マネジメントの要となる視点が見えました。新年度はそれらを意識して従事したいと思います。
----	----------	--

◆『D：コーディネート基礎編－合理的配慮の考え方－』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	双方に意見交換をしやすく、身近なテーマで明日から支援に取り入れられるご意見が多々ありました。
2	大変参考になった	事前のアンケートや資料の画面共有があったので
3	大変参考になった	保護者への対応など改めて考えるきっかけとなった。 またオンライン授業は合理的な配慮となるのか、今後きちんと考えていく必要性を改めて感じた。
4	大変参考になった	現状の悩みを共有頂き、他の方からアドバイスをもらったことで、担当者として気持ちも軽くなりました。ありがとうございます。
5	大変参考になった	各大学の実情を聴くことができたため
6	大変参考になった	具体的なお話を伺えて良かった。

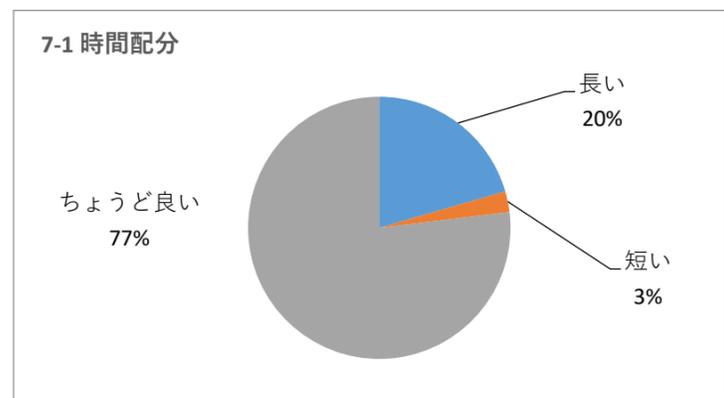
◆『E：コーディネート応用編－合理的配慮の妥当性と根拠－』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	事例について、様々な意見やアドバイスをいただいたこと。特に、合理的配慮の審議にあたって教育の本質に照合して検討することの重要性を改めて認識するきっかけとなりました。
2	大変参考になった	事例により、合理的配慮の提供に至るまでの考え方、捉え方、提案の仕方などについて改めて確認し、自身で考え直すことができました。
3	大変参考になった	実際の困難事例に対して意見交換ができて良かったです。福祉サービスなどは、違う自治体の情報を聞けることもとても参考になりました。
4	大変参考になった	合理的配慮の妥当性について深く議論できたから
5	大変参考になった	様々な事例に直面し、合理的配慮の妥当性を検討する中で色々な条件や学生の特性なども絡むため、より複雑になっていく実感をもっていました。今回の分科会で皆さんのお話を伺い、本質に立ち返ることが何より大切であるという理解ができ、シンプルでありながらも最も重要なポイントであることに気づかされました。皆さんとお話できる機会がとても貴重で、分科会Eに参加できたことに感謝しております。

7. 懇談会全体について

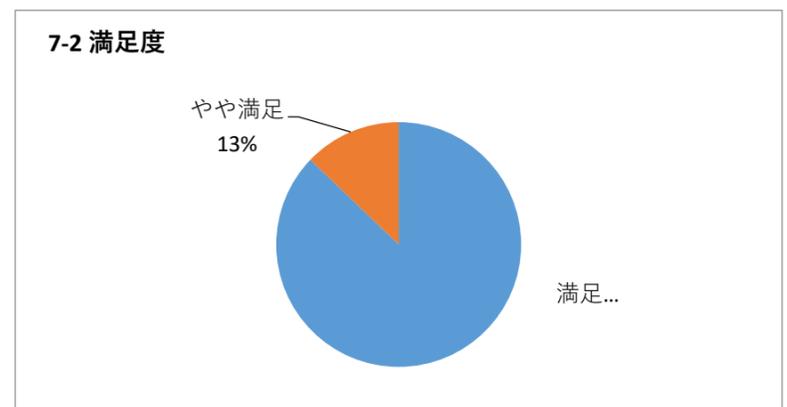
7-1 時間配分

No	選択肢	人数	%
1	長い	8	20.5
2	短い	1	2.6
3	ちょうど良い	30	76.9
4	その他	0	0.0
5	無回答	0	0.0
合計		39	100.0



7-2 満足度

No	選択肢	人数	%
1	満足	34	87.2
2	やや満足	5	12.8
3	どちらでもない	0	0.0
4	やや不満	0	0.0
5	不満	0	0.0
合計		39	100.0



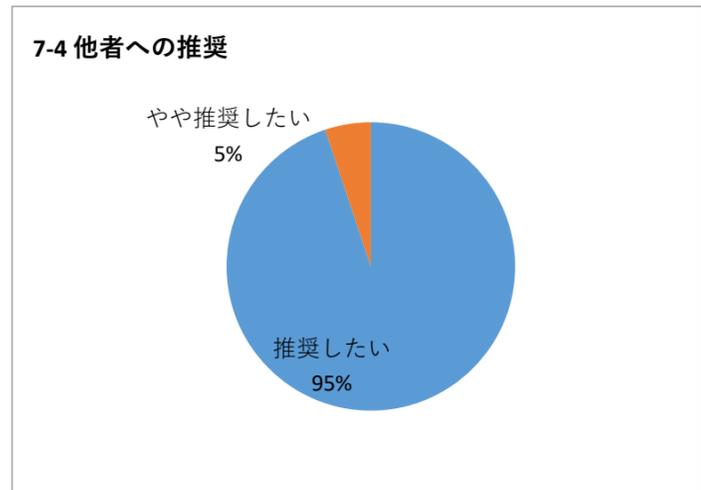
7-3 上記7-2の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	満足	話題提供と分科会のバランスが良かった。
2	満足	分科会の内容がとても良かったため
3	満足	小人数による分科会でしっかりと知りたいことが知れることや、他大学での事例を聞くことや、アドバイスを頂けることが大変ありがたいです。普段から判断に迷うケースが日々あるため、質問の機会をいただけるのもうれしく思っております。
4	満足	情報交換、他大学との交流ができる機会は中々ないため
5	満足	正直、参加する前は分科会の時間設定は長いかもしれないと思っていました。しかし実際参加しましたら、参加者のみなさまのお話をお聞きしたり、自分も話をしたりとあっという間の数時間でした。幹事の皆様、ファシリテートして下さった先生方、ありがとうございました。
6	満足	事例のご紹介により、基本的な支援の考え方を改めて見直す作業ができました。
7	満足	コロナ禍になり横の繋がりを維持するのが難しくなりましたが、今回支援に関する情報交換だけでなく新たに他大学の方との繋がりを作る機会となりました。
8	満足	支援に関する具体的な事例、またそれに係る問題点等、具体的なお話を聞くことができ、また関連した情報も提供していただいたため。
9	満足	学生対応をどうすればいいのか悩むことが多く、同様のまたそれ以外の対応事例をたくさん伺うことができ勉強になりました。まだまだ本学での部署間の情報共有が不十分であることを痛感するとともに、今後のシステム作りの参考にさせていただきたいと思います。
10	満足	情報交流できて、大変有意義でした。
11	満足	各大学の支援の形を知り、また近隣の大学とネットワークをもつ貴重な機会になるため。
12	満足	オンラインであったが、ネットワークづくりができたから

No	回答	記述
13	やや満足	現在の状況が収まり、皆様にお会いできることを楽しみにしております
14	満足	障がい学生支援に携わっていると、孤立や孤独感を抱えがちになりますが、KSSKで再び同じ立場で邁進されている皆さんと出会えることで、自校で頑張れる活力を得られるためです。
15	満足	連携の大切さを再認識しました。本校は、コーディネーター1名体制なので、支援等で困ったら相談できる身近なところがありません。今回、このような形で皆さんとつながったことは大変ありがたいと思います。
16	やや満足	話題提供や分科会それぞれで見ると、時間が足りないと感じた一方で、3月の今の時期は、業務がかなり立て込んでいることから、時間的制約の面を考えると、半日という時間は長いと感じた。開催時期が変われば、もっと長い時間だったとしても、参加したいと思う程、実りのある懇談会だと考えています。
17	満足	障がい学生支援について勉強不足であることに気づかせていただく機会になりました。まだまだ知らないことやわからないことがたくさんある状態で、学生に向き合う不安や怖さも感じましたが、より危機感を持って自己研鑽に努めるきっかけになりました。
18	満足	現在の所属先に勤務して4年目になりますが、まだまだ手探りで業務を行っていることが多く、今回も参加することができてよかったです。こうした場があってありがたいです。
19	満足	参考になるお話がたくさんありました。ありがとうございました。
20	満足	いつも心配に思っていること・困っていることに対し、情報を提供していただけるので
21	満足	連絡先の共有など細やかな配慮があり助かります
22	やや満足	発言をしたい方ばかりではないので、会の進行が難しかった。またオンラインでの分科会は余計に難しいと感じた。
23	やや満足	担当者レベルで、有意義な情報交換ができたため。
24	満足	必要な時期に必要な内容を知ることができたため。
25	やや満足	対面での実施を楽しみにしております。
26	満足	色々な大学と交流ができた
27	満足	初心者にもわかるよう工夫されていました
28	満足	所属の大学内では、1人で業務に当たっており、不安に感じることも多いが、他大学の取組み等を知れ、こうした機会はありがたい。

7-4 他者への推奨

	選択肢	人数	%
1	推奨したい	37	94.9
2	やや推奨したい	2	5.1
3	どちらでもない	0	0.0
4	あまり推奨したくない	0	0.0
5	推奨したくない	0	0.0
6	やや推奨したい	0	0.0
	合計	39	100.0



8. 今後、懇談会で取り上げてほしいテーマ、内容等があればご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	内容
1	私大への合理的配慮の義務化に関して、求められる支援内容と体制整備について理解を深めるための事例紹介等を希望いたします。
2	テーマというよりは、情報交換会がWEB開催でも参加できると良いなと感じています。
3	紛争解決について。
4	合理的配慮の事例の紹介を継続してご紹介いただきたいと思います。
5	障害学生支援に関わる法律と事例についてとりあげてほしいです。
6	高大連携について。
7	合理的配慮の内容検討
8	各大学の特色や支援室としての取り組みをより深く知りたいです。
9	合理的配慮の妥当性について
10	コロナ過においてオンラインでの支援が一気に広がりを見せたかと思います。例えば、利用するツールごとの分科会など面白いのではないかと思います。例) Google workspace、Teams、など大学によって中心に利用しているシステムが異なるのではないかと思いますので、同じシステムを利用している大学が集まると、その利用方法の共有を深く掘り下げることができるのではないかと感じております
11	・SOGIに関しての各校の取り組み ・資格に関わる学部/学科でテクニカルスタンダードを作成されている事例などをお聞きしたいです。
12	連携 支援リソース 自己理解・自己決定への支援方法
13	対面授業に戻りゆく中で、遠隔授業を合理的配慮の支援メニューとして取り扱うべきか。（個人的には、メリットのある学生には配慮として提供したいと考えるが、通信制という学び方の選択もある中で、通学制の大学を選んでいる点をどう考えるべきか迷う。）
14	①専門職養成課程における合理的配慮 ②SD等、事務職員へ理解を深めているために行っていること
15	期待されるコーディネーターの役割について
16	ざっくばらんにフラットな発言や交流ができることを希望します
17	支援・配慮の大学事務業務としてのルーティン化の方法について（配慮を過重な負担としないための方法・IT技術活用を含む）
18	合理的配慮の提供の具体例
19	大学間での支援サポート対応の可能性や遠隔受講が配慮メニューとして進める場合の問題点や課題について、知りたいです。
20	特に聴覚障害学生支援に関して、自動音声認識を利用した支援など。より効率良く、利用学生にとっても、支援学生にとってもやりやすい支援方法について知りたい。
21	入試における配慮（聴覚障がい学生のディベート・グループディスカッションの方法など）